

医系小論文



【添削課題】

出典：東北大学・教育学部・00年

解答

問1

【文章例①】

「人に迷惑をかけなければ何をやってもよい」というのは、他人に迷惑や危害を加えない限り、行動や生き方が自由に決められることであり、この「選択の自由」こそが、人間にとっていちばん大切な権利である。

ところが、日本では、子供の進学は親が決める、公園での木登りは危険だという理由で行政が禁止するなど、選択の自由を親や社会が奪うケースがある。たとえそれが「子供のため」という善意であろうとも、こういう社会は自由な発想を妨げることになるだけでなく、「選択の自由」とはリスクも自らが負うものだという基本的な考え方を奪ってしまうのだ。

このリスクも自分持ちという考え方がないから、自由と身勝手とを混同した人間が増えるのである。今、モラルの低下が叫ばれているが、この問題は「自由」を規制することでは解決しない。むしろ、少年期から責任を持つて選択する自由を与えるべきであろう。

【文章例②】

新聞にこんな話載っていた。子どもに悪影響をおよぼすテレビ番組を規制しようという日本社会の動きを知ったフランス人が、「日本にはテレビを切るスイッチがないのか」と言ったという。これは今の日本の現状を的確にとらえていると思う。

自分たちに都合の悪い意見や表現に対して、すぐに規制を要求するのは、自分で問題を解決したくないという甘えである。確かに、規制や規則があれば、安全な生活は守れるだろうし、不都合が起きれば行政やマスコミのせいにすることもできる。だが、このような

安直な平和や責任放棄の代償として、意思決定の自由や言論や表現の自由が徐々に犯されていることを忘れてはならない。

こういう状況だからこそ、「人に迷惑をかけなければ何をやってもよい」という考え方が必要なのだ。でなければ、人は考えることをやめ、自由な表現や言論を権力やマスコミに規制される社会になるのではなからうか。

【文章例③】

「人に迷惑をかけなければ何をやってもかまわない」という真の意味は、自己の意思で行動を決定するということである。しかし、個人より集団の意思を優先してきた日本では、集団の意思に反することは、他人に迷惑をかけようがかけまいが、すべて自分勝手や自己中心主義とみなされるのである。

最近、青少年の集団暴行事件、大手企業の腐敗など、企業の利益主義や若者の自己中心的な考え方が問題視されている。しかし、本当の原因は、集団主義にあるのではなからうか。個人個人が自分で是非の判断をせず他人任せの行動をとるから、国民や他人に迷惑や危害を与えることを考えもせず、上司や会社の命令、友人の理不尽な要求に順々と従う人間が増えるのである。

私たちが、自分自身で考え自分の意思で行動できるようにするには、他人に迷惑をかけない限り、個人の意思や行動を優先する個人主義に転換する時期ではないかと思うのだ。

問2

【文章例①】

援助交際や覚醒剤を使用する若者たちは「誰にも迷惑をかけていないのだから、自分たちの自由だ」と言う。確かに人に迷惑をかけているわけではないが、この言いは単に自己の欲望を正当化しただけである。

人間は集団生活を営む生物である。そして、その集団が最低限守らなければならないルールが、それぞれの集団の法律や規制である。個人が欲望のまま勝手に行動していたら、集団は崩壊してしまうだろう。ゆえに、「自由」とは集団のルールを守るという義務を遂行した者だけに保障されるものであり、欲望を満たす行為は「自由」ではないのだ。また、人間の欲望というものは肥大化するものであり、今は人に迷惑をかけていなくても、いつか他人に迷惑や危害を加える凶悪な行為にエスカレートするのは目に見えている。

モラルが崩壊している今、私たちは、集団生活にはルールを守る義務が伴っていることを認識しなければならないと思うのだ。

【文章例②】

路上で座り込んでいる若者、人前でキスするカップル、彼らは他人に迷惑や危害を与えているわけではないが、見ていて不愉快である。それは、他人の私生活を強制的に見せられるからだと思う。

なぜ彼らはそういう行動をするのかというと、それが彼らの自己主張なのである。本来、自己主張とは自分の考え方や生き方を公の場で問うものであり、反論や批判も甘んじて受け、それに屈せず自己を貫くという、かなり覚悟のいる行為である。ところが、人から非難されるのは嫌だが、自己主張はしてみたいという極めて安直な発想の者たちは、プライベートな生活を他人の目にさらすという行為が自己主張だと勘違いしているのだ。

現在の日本社会は、このような誤った自己主張がまかり通る子ども社会である。誰の迷惑にもならないからといって放置していると、社会という公の場、本来の自己主張ができる場が失われてしまうことになるだろう。

解説

1 出題の意図

小論文とは、自分の意見や立場を明確にして論じることが要求されるものであるが、出題者から論じる立場を制約される場合もある。今回の小論文も、自分の意見はさておき、出題者が決めた立場での意見を論じられるかどうかを問うものである。それも「擁護する立場」と「批判する立場」という、相反する双方の立場にたって論じることが要求されている。独りで行うディベートと比べてもよいだろう。大切なことは、物事を一方的に見るのではなく、多角的に見ることである。よく正義とか正論とか言われるが、真の意味で万人が納得する正義や正論はないということを心に留めておいてほしい。どんなに正しく見える思想も、見方を変えれば危険思想や偏見となる場合が多い。要は、この課題の意見の擁護と批判それぞれに、説得力を持たせて論じられればよいのである。

今回の場合、結論ともいえる立場は設問で制約されているわけであるから、その論点と論証が最大のポイントとなる。「擁護する立場」にせよ「批判する立場」にせよ、立場のよりどころとなる根拠を示すことができるかどうか、その論証に説得力があるかどうか、が論述のポイントである。

課題の意見は「人に迷惑をかけなければ何をやってもよい」というもので、このテーマは若者の行動パターンとして、最近問題となっている考え方である。一般には否定的にとらえられることが多いが、この意見をどうとらえるかは、そのまま、現代の風潮への

あなた方の関心度の高さを問うものである。

2 設問要求

- | |
|--|
| <p>① 問1で、課題の意見を「擁護する立場」から論じる。</p> <p>② 問2で、課題の意見を「批判する立場」から論じる。</p> <p>③ 問1・問2ともに、四〇〇字以内にまとめる。</p> |
|--|

3 論述へのアプローチ

課題は、「人に迷惑をかけなければ何をやってよい」という意見が提示されているだけで課題文がない。論点を定めたり、思考のヒントとなる課題文がないということは、この課題の意見に対する論点を自分で定め、その根拠を提示しなければならないということである。それでは、論述への作業の課程を考えてみよう。

① 論点を絞り込む

「何をやってよい」という意見を擁護する立場と批判する立場から考えてみる。例えば、擁護する立場なら「自由」や「個人」を重んじる考え方、批判する立場なら「身勝手」「自己中心主義」への批判が見えてくるだろう。その場合、どういう自由が問題となるのか、また、どういう行為が身勝手なのかというように、論点を絞る必要があるだろう。

② 論証のための具体例を考える

論点が決まれば、自分の論のよりどころとなる根拠を考える。この場合、具体的な社会現象や社会問題を挙げる必要がある。擁護、批判、それぞれの立場を論じるに当たって、適切な例を挙げるのが大切である。

③ 問1の「擁護する立場」からの論述

課題の意見を擁護する場合、「何をやってよい」というフレーズを肯定的にとらえなければならない。まず考えつくのは、こ

のフレーズが「自由」を意味していることであろう。ただし、漠然と「自由は必要だ」とか「自由は大切だ」と連呼するだけでは説得力はない。選択の自由、表現の自由など、論点を絞り込むことが重要である。

課題の意見は、「自由」以外にもさまざまな論点が考えられる意見であるので、身近な話題から探してみよう。そして、現代の日本における教育や社会問題、身近な現象を論拠として、論点としたテーマが、いかに人間形成や人生において大切かということ論じてゆけばよいだろう。

④ 問2の「批判する立場」からの論述

簡単そうに見えて、案外書きにくい立場である。というのは、課題の意見を批判するということは、「人に迷惑をかけなくても何をやってもよいとはいえない」という論を、いかに説得力を持って論じられるかという論証の力が必要となるからだ。「自由にしてよい」という論証に比べ、「自由にしてはいけない」という論の方が難しい。しかし、「人に迷惑をかけなければ」という制約を提示した出題側の意図を考えると、現代の風潮のなかにそのヒントがあると考えよう。

例えば、援助交際や覚醒剤使用など、人に迷惑をかけているわけではないが、法律や規制に反するものがあることに気づくだろう。そういう例を論拠に、この意見への批判を試みよう。

⑤ 社会現象を二つの目で見ると

問1と問2を論じるにあたり、別々に論点を探るのもよいが、同じ論点を逆方向から見るとは、一つの事象を賛否両面の立場から論じる練習になるので、ここでは、その一例を提示しておこう。

(1) 選択の自由・意思決定の自由

(a) 擁護する立場

選択・意思決定の自由は、「自由」思想のもっとも基本的な考え方であり、人間にとって最も大切な権利である。ここでは、それを論点にして、この「自由」が制約されることが、人間形成や個性に悪影響を及ぼすことを論証するのも一案である。そうすれば、「何をやってもよい」という意見を擁護することになるからだ。

《論証の具体例》

○画一的な教育

- ・日本の小学校では、絵画の時間に必ずといっていいほど親の顔を描かせる
- ↓感性を問う教科にまで、統一性を求める教育の問題を挙げる。
- ・受験競争に見る偏差値優先教育
- ↓このように、個性や自由意思を育てることを考えていない教育の現状を指摘し、自由意志や選択の自由が人間形成のために必要なことを論証とする。

○いじめの問題

- ↓他と違っているというだけで、「いじめ」の対象となる現在のいじめ問題を指摘し、異質なものを認めない日本社会や人間の心理を根拠として論じる。

(b) 批判の立場

問1と逆の立場で論じる場合は、「自由意思や選択の自由」を否定することになる。ただ、「自由」そのものを否定するのは説得力を持たせるのは困難であるから、「自由」と「身勝手や自己中心主義」との違いを明確に提示する必要があるだろう。そのうえで、「身勝手」を批判する立場をとるのが妥当と思われる。

そして、その行為や考え方の危険性、例えば、個性や人格の形成に悪影響を与えるものであることを論証すれば、よい小論文となるだろう。

《論証の具体例》

○人に迷惑をかけないが、法律や規制に反する行為

- ・援助交際や覚醒剤使用
- ・二十歳未満の飲酒

↓こういう行為に対して、なぜそれがいけないのかということを論証するわけだが、この場合、単に法律に反するからというだけの根拠では説得力に欠ける。なぜなら、法律や規制そのものが疑問視されているうえに、法律や規制自体は何の疑問も感じないというのでは短絡的だからだ。法律は何のためにあるのかというところまで論を展開させる必要があるだろう。

○法律や規制にも反していない行為

・電車内の化粧や飲食

↓こういう行為は駄目だという直接的な理由は存在しない。ゆえに、そういう行為を行う心理を分析し、そこにある問題を提示したり、その分析から未来の危険性を述べることが必要である。

(2) 思想、言論、表現の自由

(a) 擁護する立場

思想、言論、表現の自由も「自由」論を論じる場合の基本的な考え方である。思想、言論、表現の自由とは、極論をいうならば、思想のうえでは（実行さえしなければ）殺人も肯定されるというものである。この種の「自由」は、現代のように風潮が乱れてくると、道徳だの礼儀だのという一見正論に思われる思想に弾圧される危険性がある。こういう問題意識を論点にする、骨のある小論文になると思われる。

かなり深い論述を要する問題であるから、四〇〇字では少なすぎるかもしれないが、挑戦してみたいテーマの一つである。

《論証の具体例》

○マスコミの規制の問題

・子供の教育に悪いからという理由で行われているR指定の規制

↓この種の規制は、子供の健全な教育に配慮しているように見えるが、実は表現の自由が犯されることにもなるものである。こういう社会現象に着目し、なぜ、そんなことが起きるのかを論じ、課題の意見の擁護に発展させてみよう。

○思想の誘導

- ・アメリカ同時多発テロとその報復攻撃におけるアメリカの正義論
- ・特定内閣の異常な高支持率

↓ 強大な国家や指導者の意見を正当化することで、少数派の意見が弾圧されることはよくあることである。それも、以前の独裁と違って、いかにも民衆の総意のように見えるところが巧妙なところである。このような国家やマスコミによる思想操作に着目し、危険性を指摘することで、課題の意見の重要性を論じるのもよいと思われる。

一見、正論のように見えるものを批判するというのは、小論文の論述の基本でもある。このような思考や論述を身につければ、あらゆる立場から論を展開できるようになるので、ぜひ試みてほしい。

(b) 批判する立場

「思想、言論、表現の自由」は、人間にとって重要な「自由」であり、批判の論証が難しい。このテーマについては、安直に社会規制や規則に頼ることなく、社会倫理や思想の面から批判を試みてほしい。

《論証の具体例》

○没個性的な表現

- ・茶髪などの流行のファッション
 - ・若者だけに通用する言語や敬語の使えない若者たち
- ↓ これも論証するのは難しい論点だが、本来は個性を主張できるはずの「表現の自由」が、かえって没個性となっているのはなぜかという点から考えると、論証の材料が見えてくるのではないだろうか。

(3) 個人の自由、個人主義

(a) 擁護する立場

日本の現状の問題の多くは、従来の集団主義に由来するものである。日本の高度成長や効率化を支えてきたのが、この集団のパワーであるが、その弊害も多い。つまり、個人の意思よりも集団の意思や目的を優先するということが、今の企業や政治の腐敗を招いている要因の一つであることは間違いない。集団主義の弊害を論拠に、個人主義の重要性に展開してゆけば、説得力のある論になるだろう。

《論証の具体例》

○ 集団主義が招いた社会問題を根拠とする

- ・ 大手企業の不正問題
- ・ ゼネコンと官僚や政治家との癒着

↓ これらの問題はモラルの崩壊がその要因といわれ、個人主義が攻撃されかけている。しかし、逆に、個人主義の大切さを論じることでもできる素材でもあるのだ。例えば、日本人は、個人個人が自分自身の価値観や倫理に照らし合わせて行動するという姿勢がなく、会社や省庁の論理、派閥の論理のままに動くという集団社会である。この考え方とその弊害を指摘し、ともすれば自分勝手と非難されがちな個人の自由や個人主義を擁護するという論を展開するのもよいだろう。

(b) 批判する立場

集団主義も弊害ばかりではない。集団生活における利点をあげ、それを根拠に集団のルールを守る大切さを論じること、課題の意見への批判とする。

また、個人主義を批判する方法もあるが、この場合は「人に迷惑をかけない」という条件を満たさなければならないことを忘れないでほしい。

《論証の具体例》

○ 集団主義の利点・個人主義の欠点

- ・ 地域コミュニティの復活

・集団で教育することの利点

・核家族や個人主義による親の価値観を押し付ける教育

↓例えば、大人といえは両親しか知らず多様な価値観に触れずに育った子供たちの視野は狭い。それに対して、幼児期から集団のなかにいると、そのなかでさまざまな価値観に自然に触れ、視野が広がるという利点がある。そういう集団生活の利点を根拠に、個人主義への批判に展開させてみよう。

以上、相反する見方の一例を挙げてみたが、これ以外にもさまざまな論点が考えられるだろう。自分の身近にある現象を見つめ、論理的に分析する練習をしてほしい。

【添削課題】

出典：広島大学・生物生産学部・99年（字数・リード文改）

解答

【文章例①】

課題文から、癌で逝った叔母を思い出した。

優しい叔母だったが、些細なことも夫の判断を仰ぐ依存性と臆病さを持った人だった。検査を受けた時には、癌は既に全身に転移していた。家族と医師は話し合い、彼女の性格を考慮し告知を控えた。告知によるショックとダメージは身体に悪影響を及ぼすだろう、残りの日々を安らかに送って欲しいという配慮からである。

だがある時見舞客の不用意な一言から叔母は癌を知ってしまった。そのショックに加え、信じていた家族に裏切られたという思いも強かった。家族の気持ちを理解しようとしたが、落ち込む気持ちの制御は困難であった。

彼女の死後、家族も深い後悔を覚えた。今も妻に詫び続けていると叔父は私に語った。

家族も医師も患者を思い最善の選択をしたつもりだったが、意図とは異なる結果を招いてしまった。原因と責任を問うのは難しいが、少なくとも医療側の問題は指摘されねばならない。何人もの患者の生と死を看てきた彼らは、家族とは異なる情報を持っていたはずだ。それを活用できなかったことに根本的な原因があると思う。

二一世紀は生命科学の世紀ともいわれる。その技術は医療にも新たな可能性を広げる一方で遺伝子診断に代表される命の選別、社会的差別の創出などの問題を産み出す恐れも強い。一方、経済の悪化が医療現場でのリストラを強要している事態もある。こうした現状で、医療者個人に問題の責任や解決を委ねるのは無理がある。

今後必要なのは、多様な情報をストックし、誰もが利用し得るシステムではないか。そのために、多くの医療者、さまざまな病歴や

人生経験を持つ人々、医療以外の分野の専門家らが、互いに協力しあえるような複数の場の設置と、それらをネットワークでつないでいくことを提案する。医療を目指す一人として、それに貢献していきたいと私は考えている。

【文章例②】

課題文から思い浮かんだのは、レジンベレットの海洋汚染拡大と航海中に船上で生じたゴミの自己処分を定めた海洋汚染防止条約の発効時期が重なるという、ある雑誌中の指摘である。小型船舶の焼却炉はドラム缶を改良しただけの簡易炉ゆえ、焼却処分されるプラスチックは不完全燃焼のまま小粒子や微少な紙繭状となり海面に落下する。汚染防止の国際条約が汚染物質を微細化し広域散布する結果を生んだ事実は、よかれと思った行為が悲惨な結果を生んだ点で課題文中の悲劇と同じ構造を持つ。この事例の原因も、条約作成と発効に関わった人々の間に総合的な推理と判断とが欠けていたことだろう。

だとしたら必要なのはそうした力を専門家らが持つことである。ではどうすればそれが可能か。有効な答を見出すには、小型船舶が簡易炉しか持たないこと、或いはプラスチックの添加剤として使われるビスフェノールA（人工化学物質）に問題があるのではという発想を、条約作成や化学物質開発に関わった科学者がなぜ持ち得なかったのか、ということを探る必要がある。

解明の鍵となるのは、政治・法分野の人々も含めて条約策定や研究に直接関わったのが、同じ目的を共有する専門家集団であることだと思う。このことは、科学研究の閉鎖性克服のために異なる研究分野間のネットワークを作っても、それが類似の価値観や問題意識を共有する集団のものでは、判断に限界があることを示している。

必要なのは、科学研究開発のプロセスに、全く異なる価値観を持つ人、異なる文化の中に暮らす人々の目と声とを取り込んでいくことだろう。但しこうしたシステムを有効に機能させるには、たとえ非科学的で無知に基づく声と思えても、それを科学者が尊重し吟味に活かしていく姿勢が不可欠だ。この姿勢こそ、二〇世紀の科学の過ちを繰り返さないために科学研究者に求められるのではないだろうか。

解説

1 課題文の概要

第一段落…具体例の提示

- ① 具体例…アメリカの食品会社による、飢餓に悩むアフリカの子供に向けての、自社製缶ミルク配布のキャンペーン
- ② ①を支えた考え方（常識）と評価

・栄養状態が悪く母乳が出ない母親にとっても福音

・（缶ミルクは）栄養素が十分に補強されているから、（子供たちの）栄養も偏らないはず。

↓販路拡張の思惑もあつたろうが、非道な計画には見えない。

第二段落…キャンペインの結果とその直接の原因の分析

- ① 結果…無残（栄養失調や消化器系の感染症で死亡する幼児が激増）
- ② 原因（分析）

(1) 現地の母親たちの意識と振る舞い方…缶ミルクは貴重↓指示通りには使わず、少しずつ食い延ばそうとした。

↓閾値をつけて横流し。

(2) 現地の水事情の悪さ…哺乳瓶や乳首の洗浄・消毒が出来ない。

第三～四段落…問題提起と筆者の考え

- ① 問題提起

↓それでは、指示通りにミルクを使わなかったお母さんが悪かったのか（無残な結果をもたらした原因は何なのか）。

- ② ①に対する筆者の考えとその理由（悲劇の本質的原因の分析）

・筆者の考え…そうではない。悲劇の原因は、アメリカの食品会社とそれに賛同した人々の側にある。

・理由（本質的原因）…（アメリカの食品会社とそれに賛同した人々が）自分たちだけの常識と、狭い領域の中に閉鎖的に閉じこめられた科学的判断だけから動いたこと。（＝彼らに、総合的な推理と判断が欠けていたこと。）

2 設問要求

- ① 科学史の専門家村上陽一郎氏が、今日の科学者の存在とその行動を分析し、その光と陰を浮き彫りにしながら科学者の責任や社会への対応を探った『科学者とは何か』という書物からの引用（課題文）を読み、その内容を理解する。
- ② 二一世紀を担う一員である自覚に基づき、これから自分が身につけねばならないものや社会から求められるものを想像し、その内容を小論文としてまとめる。
- ③ 六〇〇字以上八〇〇字以内でまとめる。

3 論述作成へのアプローチ

要求されているのは、（設問文と課題文を読解し）「二一世紀を担う一員である自分が、これから身につけねばならないものや社会から求められるものを想像し、その内容を小論文としてまとめること」である。まずこの点をきつちりと押さえた上で、論の構造を練っていきこう。

① 構想の大枠を立てる

本課題のように比較的ボリュームのある設問文の場合には、受験生に向けての大学側のメッセージが織り込まれている場合が少なくない。よって、与えられた時間を効率的に使い確かな論述を作るためには、設問文からそうしたメッセージ（活用可能な情報）を読み取り、論述に活かすことがカギとなる。

即ち、「設問文を分析的に読み↓そこから有効な情報を取り出し↓それをふまえて課題文を読み解き↓論述の構想を練る」という流れで、小論文の作成を考えていくとよいだろう。

② 設問文を分析的に読み、有効な情報をチェックする

設問文から第一に押さえるべきは、いうまでもなく「何を論じればいいのか」（要求テーマ）と条件である。その上で、実際に論述を作成していくためのヒントとなる情報をチェックしていこう。要求テーマと条件については既述したので、ここでは効率的な情報のチェック・整理の仕方の例を示しておく。

1 出題側（大学側）が期待する学生像（出題のねらい）

- ・今日の食料問題や環境問題に関心を持っていること
 - ・知識や実力を大学で身につけたいと望んでいること
 - ・人類の福祉に貢献したいと考えていること
- ↓ 論述作成（材料選択や意見の提示）のヒントとして活用

2 課題文の出典の紹介

- ・今日の科学者の存在とその行動を分析↓その光と陰を浮き彫り
 - ・科学者の責任や社会への対応を探ったもの
- ↓ 課題文読解と論述作成（特に分析）のヒントとして活用

3 論述すべきこと（論述に盛り込むべき必須ポイント）

- ・二一世紀を担うという自覚あるいは決意
 - ・これから自分が身につけねばならないもの、あるいは社会から求められるもの（とは何か）
- ↓ 今後（二一世紀）の世界や社会のありよう（特徴や問題）を想像し、それらとリンクさせて、（大学で科学を学び、やがては科学研究に携わっていくであろう）自分が身につけるべきこと、あるいはそうした自分に社会が何を求めているかを考え、論じていくことが必要。

③ 課題文を読み解く

課題文の内容・論理構造については、「1 課題文の概要」を参照。ここでは、課題文から何を押さえ、論述作成にどう活用していくのか、という点についてのヒントを幾つか示しておく。

(1) 課題文から何を読みとるか↓設問での指示に従う

- ・特に指示がない場合には（基本は）課題文で扱われている中心のテーマ（あるいは論点）と筆者の主張及びその論拠。
- ・本課題では、設問分析の結果に則し、次の二点を中心に押さえておくことよ。

(a) 科学者（あるいは科学）の光と陰

例えば、

「光」について↓（設問文中に提示されているような、食料問題や環境問題の）問題解決に貢献できる可能性を持つ。

↓多くの人々の支持や賛同を得ることも可能である。

「陰」について↓無残な（取り返しのつかない）結果を招く恐れもある。

↓その原因は、科学的判断を下す際、自分の常識と狭い領域の中に閉鎖的に閉じこめられがちなこと。換言すれば、「総合的な推理と判断」を欠く恐れがあること。

(b) 科学者の責任

例えば、(a)で押さえた「光と陰」の両面を参考にして考えることが出来るよう。

(2) 読みとった内容を論述作成にどのように活かしていけばよいのか

- ・特に指示がない場合には（基本は）、

(a) 課題文筆者の主張を検証し↓それに対しての賛否（自分の立場）を定める。

(b) (a)で定めた立場に立って、課題文の中心テーマについて、自分の考えを述べる。

- ・本課題（設問要求や条件、論述作成のためのヒントや情報が与えられており、それらを活用しての論述作成が求められるような場合）では、

(a) 基本（右記）に沿っての活用

(b) 前項②の3で整理した内容（論述に盛り込むべき必須ポイント）の考察に活用

例えば、

▼「これから自分が身につけねばならないもの、あるいは社会から求められるもの」について

↓まずは「総合的な推理と判断」ではないか。
▼なぜ、そうしたものが必要となってくるのか。

↓「食料問題」や「環境問題」は、さまざまな要因が複雑に絡んで発生し深刻化していくという特性を持つ問題だから、「自分たちの常識と、狭い領域の中に閉鎖的に閉じ込められ」たままの発想や思考では、解決法を探ることが不可能だし、
更には（課題文の事例のように）問題自体を悪化させていってしまう危険すらあるからではないか。

……など

④ 論述の構想を練る

構想の練り方は、各自の自由に任されているが、基本は設問要求・条件を満たすことである。ここでは、基本に沿っての構想の練り方の一例を示しておこう。

(1) 構想の立て方の順序（流れ）の例

- (a) 設問要求・条件の確認↓ポイント毎に分けチェックしておく。
- (b) (a)で整理したポイント毎に、論述に盛り込みたい内容を考えてみる。
- (c) (b)で考えた内容を、どのような順序で述べていけば効果的か（読み手に伝わる論述となるか）ということ（構成・展開）を工夫する。

(2) 実際に構想を練ってみよう

設問要求・条件の確認（↑「2 設問要求」を参照）、ポイント毎に分けチェックし、それぞれについて論述に盛り込みたい内容を考える。

ポイント1…課題文の読解と論述への活用（↑前項③参照）

ポイント2…「二一世紀を担う一員である自覚」

▼二一世紀とはどんな世紀（時代）になると考えられるか

↓現在までの諸問題・諸課題を想起し、それらをもとにして、今後の時代を考えてみるとよい。
例えば、

- ・「食料問題」や「環境問題」等が深刻となり、その早急な解決が求められてくる。
- ・地球規模で高齢化が進展していく。
- ・遺伝子操作技術が更に進展し、倫理面・社会面など多方面にわたってそうした技術の用い方が問われてくる。
- ・情報技術も進展し、遺伝子操作技術と同様な課題が突きつけられる。また、国際・国内での情報格差が新たな不平等を生み、拡大していく恐れもある。
- ・国際紛争、民族問題や内戦は当分続き、先端技術の兵器利用が悲惨な結果をもたらす恐れもある。

……など

*）問題点を中心に例をあげたが、併せてプラスの側面を考えていってももちろんよい。

▼そうした次代を担う一員であるという自覚について

↓二世紀に予想される問題や課題の解決、あるいはよりよい社会作りに自分はどうか関わっていくつもりなのか、設問文の冒頭に書かれた大学側の期待を視野に入れつつ、自分の志望分野との関連に照らして考えをまとめておくとよい。

ポイント3：「これから自分が身につけねばならないもの、あるいは社会から求められるもの」

▼「これから自分が身につけねばならないもの」とは何か

↓ポイント1・ポイント2、及び自分自身の特性を踏まえて整理していこう。特に課題文で筆者が出している問題提示とそれについての見解（これまでの科学や科学者の特性や弱点）をきちんと受けとめ、科学研究に携わる一人として何が大切なのか、それはなぜかということを明らかにしておきたい。

▼「社会から求められるもの」とは何か

↓ポイント2で整理した二世紀の社会のあり方を踏まえ、科学研究に携わっていく者に対し、社会から求められるものは何なのか、科学者の社会的責任という点も踏まえて明らかにしておこう。

(3) 論述の流れを工夫する

読み手（第三者）に自分の考えを正しく伝え且つ納得してもらうにはどんな順序で述べていけば効果的か、という観点に立って、前項で整理した各ポイントの論述への盛り込み方を考えていこう。迷った人のために、展開の基本例を示しておく。

(a) 課題文の要約・課題文で扱われている中心のテーマと、それについての筆者の主張及びその論拠を簡潔にまとめておく（ポイント1）。

← (b) (a) に対しての自分の考え（基本的立場）を示す（ポイント1）。

← (c) (b) の立場から、二一世紀を担う自分がかれから身につけねばならないもの、社会から求められていること（ポイント3）を述べていく。

← (d) (c) の理由（ポイント1・ポイント2）を示し、自覚・決意（ポイント2）を述べる。

*その他、文章例を参照し、自分なりに効果的な展開を工夫してみよう。

◎最後に、課題文のすぐ後に、筆者村上陽一郎氏が書いている考えを示しておく。自分の考えの練り上げや材料選びのヒントとして活用して欲しい。

レイチェル・カーソンが、幾つかの現象の観察や知識を組み合わせ、あり得べき未来の危険を推理し予測したように、あるいはシラードが、原子物理学という自分の専門分野から抜け出て、手に入る様々な観察結果や知識を統合して、核兵器の未来を国際関係に到るまで予測したように、この場に、いくつかの領域での基礎的な知識を持ち合わせ、それを統合する健全な推理力、予測力を備えた人間がいたならば、この悲劇は救えたかもしれないのであつたのである。その知識とは、そうした缶ミルクが送られる地方の生活水の状況はどのようなものか、貧しい状態に置かれたお母さんたちが、外国から目新しい高価そうなものを手に入れたらどのように感じ、どのように行動するか、といったことがらであつて、そうした知識の断片を持ち合わせ、しかもそれらを適切に組み

合わせて、あり得べき危険な結果を予測してみるだけの能力を備えた人が、まさしくその場に要求されていたのである。

出典：茨城県立医療大学・保健医療学部・03年

解答

問1

「してあげる」という言葉は「させる」よりも柔らかく相手を持ち上げているようであるが、実は「させる」同様相手を見下す表現である。医療者が患者に「してあげる」と言うとき、本来あるべき相互规定的関係が歪み、医療者の意識の中で患者は個別性を失い、行為の主体ではなくただ待つだけの人になる。文1の筆者は、SPの体験を通して、こうした、医療者の意識中の二重の偽造を感知したため、「うさん臭い」と感じたのである。

問2

ここ数年、日本の自殺者数は過去の水準を大きく上回り、年間三万人前後にのぼるといふ。自殺の背景には、不況や競争原理の浸透によるストレスがあるのだが、直接引き金を引くのは鬱病などの精神疾患である。

日本では精神疾患に対する偏見は根強く、病識も薄い。これらが治療により救える命を奪い、残された家族のトラウマを増大させるのだ。事態の早急な改善が必要である。

患者の来院を待つだけでは改善は望めない。医療者自らが地域に出て様々な人々との触れ合いを深め、偏見を解き、早期治療の自覚を促す努力が大事ではないか。それはまた、インフォームド・コンセントにとって不可欠な医者／患者間の信頼関係の土台ともなる。

日常の暮らしの中で人々と関わっていくことで医療者自身も磨かれる。医の専門家である前に一人の生活者であることこそ、これからの医療者のあるべき姿だと私は思う。

1 課題文について

設問では二つの課題文を読み、それを踏まえて問に答えることが求められている。二つの課題文のうち【文1】は新聞のコラム記事からの抜粋であり、SP（模擬患者）が、臨床実習において医学生に対し疑問に感じたことを述べた文章である。事実とそれに基づく筆者の思い・考えが平易な文章で綴られているので読解は容易だろう。これに対し、【文2】の文章は、倫理学者の著書からの抜粋であり、理念的論議を中心とした文章であるため、やや読みにくいと感じた人がいるかもしれない。読解に手こずったときには、設問文も参考にし、二つの文章の関係を押さえ、以下のように再度読解に取り組むとよい。複数資料文の関係把握の目安は、共通点と相違点に着目することである。問1の設問文を手がかりとして読んでいけば、【文1】【文2】に共通するのが「してあげる」行為についてそれを問題として捉え書かれた文章であること、また相違点は、既述したように【文1】が具体的体験に基づく疑問提示の文章であり、【文2】はその疑問の意味や構造を分析・解明した文章ということになるだろう。以上から、【文2】の読解にあたっては、【文1】に記されている具体的場面を想起し、「してあげる」という意識がなぜ「うさん臭い」と感じられるのか、そのわけを理解することを目指し読み進めていけば確かな読みができるし、更に、問1の答案作成のヒントを得ることも可能だ。

2 課題文の読解

【文1】……具体例に基づく疑問の提示

▽医学生の教育のためのSPを演じた際、

① 孫ほども年下の学生から「患者に……させるのが難しい」など使役表現で感想を述べられ↓病気になどなるものではないと感じた。

② 「患者さんに……してあげれば……してあげられた」という声もあったことに関し

↓①に比べれば、「……してあげた」という声は柔らかく聞こえるが、その「あげる」という言葉はどうもうさん臭い。

③ ②の説明↓医療者に「してあげる」と言われると、「させる」と下に見られるのと同じように、自分とは目の高さが違うと

感じてしまう。

【文2】……疑問（問題）分析

① 疑問（問題）提示

「してあげる」という意識が醜悪なのは、「してもらう」という意識がこころの重荷になるのは、いったいどうしてだろうか。

② 分析

▽①の問題構造の確認

・私 が 他者 の ため に 何か を する という 単純 な 行為 の 中 に、〈わたし〉と もう ひとり の 〈私〉 と の 自意識 の ゲーム（他者 が、自意識 形成 に 不可欠 な「もう ひとり の 〈私〉」と なる と 同時 に、つ くら れ 始 め た 自意識 が、自 分 を 独 立 自 存 の も の と 承認 さ せたい という 欲 求 を 他 者 に 対 し て 持 ち、表 面 化 し て し ま う こ と）が 発 生

←（A）

・その行為が他者との通路をふさぐもの、他者との関係を絶つものへと反転

▽問題発生 の過程（A）の分析

・（A）⇨ 転換の過程では、関係のある種の偽造（B）が起こっている。

・（B）⇨ 体験の意味を規定する、自／他の相互規定的関係の場が、一方通行的な場に変形

▽あるひとのためになにかを「してあげる」という意識（C）の分析

・（C）のなかでは、「あるひとのために」という関係が二重の仕方偽造（D）される。

・（D）⇨ 二重の偽造の分析

★自／他の相互規定的関係が、発信／受信、能動／受動の関係へと移行⇨「（他者である）もうひとりの〈私〉」はただ待つ人となり、行為の主体ではなくなる。

☆「（他者である）もうひとりの〈私〉」は、個別性を失い、匿名化（「助けを必要とする人」という社会的な意味類型の中につづめられる）

③ 分析まとめ

他者のために何かをするという単純な行為は、「してあげる」という意識の介在により歪んでしまうのだ。

問1について

求められているのは、【文1】の筆者が、患者が医療者に「してあげる」あるいは「させる」と言われると、相手（医療者）に対してうさん臭いと感じると述べている理由を、【文2】に基づき述べることだ。

「うさん臭い」とは、「どこことなく怪しい。疑わしい。油断ができない」ことを表す表現である（『大辞泉』より）。なぜ患者は、「してあげる」あるいは「させる」と言う言葉を発する医療者を怪しげで疑わしいと感じてしまうのだろうか。【文2】に基づき考えるならば、そのとき患者は、医療者のところ（意識）の中で起こっている、自／他の関係の歪みを察知したからということができらるろう。ゆえに、ここでは、【文2】から、その「自／他の関係の歪み」の発生過程とその特性や意味を押さえ、【文1】の筆者の疑問提示と突き合わせて、設問要求に応える形でまとめ、述べていくとよい。

課題文の内容については前項参照。ここでは必要ポイントのみ示しておく。

◎必要ポイント

① 「させる」とは使役表現であり、医療者が患者を下に見ていることを表す。

② 「してあげる」は、相手（患者）を持ち上げているようだが、実は①と同じ。

③ ②の理由

ア) 自／他の本来の関係のあり方⇨相互規定的関係

イ) 「してあげる」という意識が介在することにより、医療者の意識に二重の偽造が発生

・ 自（医療者）／他（患者）の相互規定的関係が、発信／受信、能動／受動の関係へと移行⇨医療者の意識の中で、患者はただ待つ人となり、行為の主体ではなくなる。

・ 医療者の意識の中で、患者は、個別性を失い、匿名化（助けを必要とする人）という社会的な意味類型の中につづめられる。

④ 【文1】の筆者は、SPの体験を通し、①③を感知

問2について

1 設問要求

① 論述の主題↓これからの医療者のあるべき姿（について）

② 条件

・冒頭の設問文で説明されている今日の日本の医療の状況（患者の権利主張・医療不信の高まりに呼応し、従来のパターンリズムに基づく医療のあり方を反省、インフォームド・コンセントが重要だという認識が高まりつつあるという状況）に関連させ、論じること。

・【文1】と【文2】を踏まえること。

・医療者側の視点に立つこと。

・「インフォームド・コンセント」という用語を用いること。

・四〇〇字以内でまとめること。

2 論述作成へのアプローチ

論述の字数は四〇〇字と少なめであるが、前項で確認したように要求条件は多い。よって、まずは、論述に盛り込む必要がある内容を設問要求に基づき分析・整理し、その上で、それらをどのように組み合わせ順序立てて述べていくかを考えていくとよいだろう。

① 主題の分析

要求主題「これからの医療者のあるべき姿」は「これから」、「医療者」、「あるべき姿」の三つからなる。

これらを設問条件と突き合わせ、各々について盛り込むべき内容や情報を探し整理してみよう。

ア)「これから」について

設問条件に、今日のわが国の医療状況に関連させよという指示がある。よって、ここでは、これからの日本の医療が直面する課題や状況の中で「インフォームド・コンセント」の重要性が増していくことを考えるのに効果的なものを探ってみるとよい。例えば、遺伝子治療や遺伝子診断などの先端医療技術の進展がもたらす新たな倫理の要請、高齢化の進展に伴う痴呆や要介護老人の増加・生活習慣病の蔓延への対応、グローバル化の進展がもたらす新興感染症対策、社会の複雑化・情報技術の進展に伴うストレスや精神疾患の増大への対応等が考えられそうだ。

イ)「医療者」の「あるべき姿」

二つの課題文内容に照らすならば、出題側が求めているのは、少なくとも患者に「うさん臭さ」を感じさせることのない医療者の姿であろう。それは、患者の個別性にきちんと向き合い、患者と相互规定的な関係を保ちつつ医療を行うことのできる「医療者」である。また、冒頭の設問文に照らすならば、「パターンリズム」の問題点を反省し、「インフォームド・コンセント」の重要性を認識している「医療者」ということになるだろう。こうして整理していくと、二つの課題文から読みとった「医療者の姿」と、冒頭の設問文から押さえた「医療者の姿」が、「インフォームド・コンセント」という一点で一致することが分かる。これをベースに据え、アで整理した今後の日本の医療の具体的な課題と突き合わせていけば、出題側の要求に応え得る「医療者」の「あるべき姿」の具体的内容は自ずと浮かび上がるだろう。

② その他の設問条件の活用

冒頭の設問文と二つの課題文及び「インフォームド・コンセント」という用語に関する条件については、①の設問分析中で触れたが、もうひとつ「医療者側の視点に立って」述べよという設問条件がある。これまで整理してきたことから、「医療者側の視点」とは「医療者」にとって都合のよい視点という意味でないことは分かると思う。医療者の役割や特性を視野に入れたうえで、「医療者」として何をすべきなのか、患者に対してどう接するのを書いて欲しいという意味として捉えたい。

また、四〇〇字という字数については、既述したようにそう多くはないので、これまで整理してきた内容を踏まえポイントを絞り込んで述べていく(配分に留意し、論の構成・展開を工夫する)ことが大事だと捉えておくとうい。段落構成については、一つの段落には一つの内容を原則とし、段落間のつながり、論理の流れに留意し決めていけばよい。



Z-KAI

会員番号	
------	--

氏名	
----	--